

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075500704		
法人名	NPO法人ヒューマンネット大地の翼		
事業所名	グループホームうぐいす		
所在地	福岡県宮若市本城1104番地		
自己評価作成日	平成22年11月16日	評価結果確定日	平成22年12月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kai_gosi_p/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kai_gosi_p/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成22年11月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様だけでなく、家族とも信頼関係が築けるように、努力している。日常生活から急変時の対応や病院との連携、看取りの対応など、利用者様や家族から「ここで良かった」と安心していただけるように支援している。開設以来、4名の方がお亡くなりになられたが、皆さまから「人生の最後をここで過ごせて幸せだったと思います」と言っていた。利用者様がお世話されるだけでなく、自分も何か(誰か)の役に立っていると、生きがいを持っていただけるように、職員を手伝っていただいたり、他の利用者様のお世話をさせていただくなど支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所以来隣組に加入し、地域行事である盆踊りや清掃、防災の話し合い等への参加や、近隣の棟梁や包丁などに来所される方々とおつきあいを継続している。毎月開催してきた家族会は自由に意見交換できるように家族だけの会議開催を家族と相談したり、防災訓練や地域こども会が参加するクリスマス会・もちつきに家族の協力をお願いしている。終末期の方針の整備や医療的処置に伴う同意書を取り交わし、昨今入居者の希望で看取っているが、職員に対する入居者や家族の信頼も篤いことが伺える。本年度から開始した通所介護の利用者を接待する入居者もあり、職員や入居者との関わりから、ホーム理念である地域に密着したサービスが促進しつつある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

ユニット/  
事業所名 **グループホームうぐいす**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼時に、理念を唱和し、確認をしている。	法人やホームの理念を事務所入口に掲示し、毎日の唱和で共有している。開所時に入職した職員も多く、今回の通所介護開設で、地域密着型サービスであることが促進しつつある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入って、5年目になる。公民館の行事に参加し、回覧板も回している。	地域行事である盆踊りや清掃、防災の話し合い等に参加したり、今年は恒例の地域子ども会が参加するクリスマス会・もちつきを予定している。元大工棟梁や包丁とぎに力を貸してもらえ方々とのつきあひも継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で、老人会の方々、行政の方々と、認知症について対応の仕方等伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回、必ず運営推進会議を行い、情報を提供し共有している。また、行政の参加も必ずお願いしている。	老人会会長や公民館館長、民生委員、警察や消防関係者、知見者等の参加が継続し、同日に開催している家族会参加者も出席している。会議では、認知症に関する質問や意見が出たり、防災訓練の参加者から、具体的な意見や感想も述べられ、消防署から対応が早いと評価されていた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の窓口へ出向いたり、電話で不明な点を尋ねたり、サービスの向上につなげている。	地域包括支援センターから居室状況の問い合わせがある。地域同業者協議会のGHみやわかの主催の研修会にも地域包括支援センター職員が参加し、参加事業所と意見を交わしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束をしないケアを心がけているが、現状ではやむを得ず玄関を施錠している時間もある。	身体拘束の具体的な行為を理解し、「ちょっと待って」の言葉や車いすテーブルの長期利用も範疇にあることを周知している。1人で外出する入居者は、ネームプレートを利用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に積極的に参加し、小さなことでも虐待につながる事をミーティング等で、話し合い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	GHみやわかでの研修を受け、その時DVDを借りて、ミーティングでの学習の機会を持って、意見の交換も行った。	玄関ホールに制度のパンフレットを整備し、DVDを活用して、制度の理解を促進している。現在まで、制度等の活用者はいないが、今後はDVDを活用し、家族に制度の理解を促す予定である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の説明は、もちろん内容の変更のたびに、文書で説明(看取りの時なども)し、理解していただいている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが、直接要望などと言っていただけ様、努力している。	毎月家族会を開き、意見等をお願いしてきたが、今後は自由に意見交換できるように家族だけで会議を運営する方向で家族と相談している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングには、毎回、殆どどの職員が参加し、理事長や管理者に直接意見を言える雰囲気になっている。	毎月のミーティングでは入居者のケア等に関して、活発な意見を交わしている。夜間のおむつ交換や通所介護利用者の送迎に入居者を同伴するか等について、率直な意見があった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得を推進するなど、勤務状況の変化にも配慮している。今年は3人介護福祉士に合格した。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別や年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。 シフトを組む前に希望休を尋ね、権利を十分に守っている。	開設時からの職員や常勤職員も多く、昇給や年次有給休暇取得に配慮している。職員の資格取得や研修参加を支援し、働きやすい職場環境づくりをしている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎月のミーティングや朝礼で、いつも入居者の立場に立ったケアや言葉かけを確認している。	GHみやわかで研修会を開催したり、毎日のミーティングで入居者への声かけや対応について話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修等にできる限り参加している。また、GHみやわか、Fブロック研修などにも参加している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	Fブロックや、GHみやわか毎月の研修で交流を持っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時は、本人や家族との話し合いの時間をなるべく多くつづけている。自室に入り傾聴する事も多い。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の悩みなどをできる限り聞いている。信頼関係を築く事に努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来る限り他の施設などの情報も入れて、本人にとって、より良い支援を行う事を努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に家事をしたり、利用者様の悩みなども聞くようにしている。利用者様と職員が反対の立場になることもある。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会のお願いをしている。 家族会は毎月実施している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出を出来る限り支援している。	家族との墓参りや行事参加を支援したり、入居者の親せきや知り合いの訪問を歓迎している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の仲を把握し、柔軟に対応している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状や行事の案内をしている。時々、「懐かしい」と、わざわざ尋ねて下さる事もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り声かけ・傾聴し、本人の気持ちを知ることに努めている。	センター方式を活用して、本人や家族から生活歴や職歴を聴きとり、意向の把握に努めている。担当職員を決め、日頃の関わりから得た気づきをミーティング等で共有している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族に話を聞く等して、把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調管理はもちろん、表情などにも気をつけている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	出来る限り行っている。	毎月のミーティングで担当職員等の気づき、把握した入居者や家族の意向等を話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月毎に計画を見直し、本人や家族に説明し、了承を得ている。	把握した意向や趣味、楽しみを実現するため、スモールステップの短期目標の設定の検討をお願いしたい。よりモニタリングや評価がしやすくなると思われます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出来ている。介護記録は勿論のこと、介護日誌にもその日の出来事を簡単に記録し、職員同士で共有し、実践している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当施設の良いところをアピールし、また、それに甘んじる事なく、サービスを提供している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来るだけ四季折々のうつり変わりを感じていただけるよう、花見・紅葉ドライブ・灯笼ながしなど資源を利用し、楽しいでいただいている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人にとって最もよい方法で、往診をしてくださる病院に変更したり、家族と話し合いをしながら支援している。	時間外受診や緊急入院等を考慮し、近隣の協力医療機関を増やしている。職員が受診に同行する場合は、結果を随時家族に連絡し、記録を整備している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院を前提としたものではないが、各病院とは良好な関係作りを心がけている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時だけでなく、家族会、面会時など、看取りに関しては特に繰り返し説明を行っている。利用者様の日々の様子、体調観察など職員全員が周知し、支援させていただいている。	重度化や終末期に向けた方針を整備し、入居者や家族に説明し、同意を得ている。かかりつけ医と連携しながら、医療的処置に伴う同意書を取り交わしている。本年度は本人の意向で、1名の入居者をホームで看取っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修や訓練を定期的に行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議にも取り入れたり、地域の方々とも一緒になって取り組んでいる。	豪雨の際、地域同業者から避難場所の提供があるなど、GHみやわか活動や協力体制が伺える。前回の防災訓練では、地域の方々や家族も参加し、実践ならではの意見も出されていた。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけは日頃から気をつけて対応している。	日頃から入居者への声かけや対応に配慮することを話し合っているため、穏やかな対応を実践している。特に、トイレに向かった入居者にタイミングを見計らい声かけするなど、入居者を主体とした対応があった。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り声かけしたり、傾聴を行い、本人の思いや希望を理解し、支援できるよう(家族とも連絡し)努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間など、本人のペースに合わせるよう支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が好まれる服など、持ってきていただいている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の誕生日、季節の旬の物など、好みも尋ねて、食材に取り入れたり、利用者様にも用意(皮むき)していただいている。	入居者の心身の状況に合わせてテーブルを分けたり、嚥下困難な入居者には、目の前で食材を細かにしている。「味付けがよい」と入居者から声がかかるなど、ゆっくりと楽しい食事をこころがけている。傍の畑で採れたさつまいもをおやつにしたり、干し柿を作ったりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の献立は偏らないよう、栄養バランスを考えている。水分量は出来る範囲で支援している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、就寝前に口腔ケアを行っている。昼は利用者様に応じて行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	昼間は出来る限り、トイレで排泄していただくようにしている。夜間は安全性の面からオムツをしている方もいる。	日中頻回にトイレに行く入居者にタイミングを見計らい声かけし、自分でトイレに行く気持ちを大切にしている。夜間のみ持参したポータブルトイレを使用する入居者もいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維の多い食べ物、芋などを提供している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	楽しんで入浴できるよう、本人の希望を聞いている。	日曜以外の午後、本人の意向に合わせて季節の柚子湯など楽しんでいる。「足が痛いから」などの入浴拒否には、「足を温めましょう」と誘導したりしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、身体を動かすなど活動量を多くし、夜間、安眠できるよう支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の一覧を各利用者様ごとにファイルしており、いつでも確認できるようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る限り、個々の力を活かし、喜びの持てる生活が出来るよう支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は出来る限り、外出できるようにしている。 家族の協力も得て、ご本人の実家に行かれる方もいる。	入居者や家族の目に触れる廊下に毎月の外出・レクリエーション内容を掲示している。日帰り温泉行きや釘抜き地蔵参りなどに出かけている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人で金銭管理の出来る方は、ご自分で持っておられ、いつでも使えるようにしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が電話をかけたいときはいつでも事業所の電話を使っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然の光や風を取り入れ、必要に応じて、カーテン・エアコンで調節している。換気扇や空気清浄機も使用している。 季節の草花を飾っている。	玄関前のプランターに季節の花を植えたり、玄関の事務所カウンターに活けられた花、ウッドデッキに干し柿等に、季節が感じられる。吹き抜けの居間の天井は高く、開放的である。対面式キッチンからは食事をつくるおいしそうなおい音が聞こえてくる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに椅子・ソファを置き、ベランダや玄関にも椅子を設置し、自由に場所を選んで過ごせるようにしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が長年使っていたダンス・ベッドを自室に持ち込まれている。 畳が好まれる方は和室として使用されている。	各居室から周囲の家屋や畑等が見え、掃き出しのサッシで明るい。入居者の生活歴・身体状況に合わせて、フローリングに愛用のベットや、畳敷き和室にマットレスを使用している。使い慣れた家具やテレビを持ち込み、家族の写真やおみやげの提げもんが飾られている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりを設置し、各部屋には表札を置いている。トイレの案内板など分かり易いようにしている。		